

# 宝満山のヒキガエル

育成団体 宝満山ヒキガエルを守る会

## 【伝えたい太宰府固有の物語】

「ほら、登山中のあなた、その足元にいる、1センチに満たない子ガエルたち、あなたと同じ、宝満山の山頂を目指しているお仲間ですよ。」



梅雨時の宝満山の登山道には不思議な現象が現れる。

九州の中でも、急峻でハードな運動量を必要とする霊山として人気の高い宝満山。以前から梅雨時の宝満山にカエルがいることは登山者にはよく知られたところであった。しかし、どこからきてどこへ行くのか、などとは誰も考えもしなかった。

きっかけは宝満山のふもとに住む渡辺さんが、2010年5月16日にふもとの池（本谷池・野々道池）に大量のオタマジャクシが群れていることに気づき、翌年2月23日に親ガエルが産卵のために山を下りてきて池で産卵していることに遭遇したことにある。この話に興味を覚えられた、農学博士の田中さんが学者の矜持をもってカエルの活動生態を観察し、子ガエルたちが登山道を上って、5月下旬から7月初旬の約1か月余をかけて頂上に達することを確認された（2016年）。

この事実は、登山者仲間でもあまり知られていない。しかし、事実の持つ衝撃度は大きかった。生まれたばかりのわずか1cmほどの子ガエルが生死をかけて登山道各所の難所を乗り越え頂上まで登ることのすさまじさに驚くとともに、毎年繰り返されるこの営みがいかなる理由によるものか、だれしも興味を覚えざるを得ない。

早速、有志によって「宝満山ヒキガエルを守る会」を立ち上げ、産卵期、登頂期のカエルの見守り、保護活動を開始した。この活動の中から、子ガエルの山登りを山仲間の情報にとどめず、大宰府政府の鬼門に当たる宝満山にまつわる神秘的な活動として、太宰府市の内外に知らせるべきとの意見が醸成されてきた。

その理由は、この神秘的なカエルの生態を知ることを通して、宝満山そのものの保護に思いをいたしていただくことが、カエルの営みを将来に残してゆく重大な条件となると気付いた点にある。もちろん、生き物を愛する気持ちをはぐくむことが大事な前提となる。そしてこの宝満山のヒキガエルの尊さに気づくことをきっかけに、カエルたちが住まう宝満山の自然と歴史への愛着を深めてもらいたいと願うものである。

（注）ヒキガエル（ニホンヒキガエル）…近畿以西の西日本に生息し、成体は10cmを超える大きさ。日本固有種で、福岡県では絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危険が増大している種）に指定されている



## 【物語の基礎となる文化遺産】

- 宝満山
- 宝満山のヒキガエル
- 本谷池
- 野々道池
- 登山道（登拝道）および内山林道
- ヒキガエルを狙うヤマカガシ
- 子ガエルを襲う蟻
- 宝満山のヒキガエル観察日誌（2016・2017・2018・2019・2020）
- 宝満山のヒキガエルの記録写真・映像
- ヒキガエルのための宝満山登山ガイドブック
- 童話「宝満山のホマンとハナの十六詣り」など

## 【文化遺産を保存活用する活動（育成活動）】

- 宝満山のヒキガエルを見守り・保護する活動
  - 宝満山に生息するヒキガエルを観察する
  - 産卵のために池まで下山する親ガエルたち、池から宝満山山頂を目指して登頂する子ガエルたちを最小限のかたちでサポートする
  - ヒキガエルの産卵期・登頂期における注意喚起
- 宝満山のヒキガエルを広報普及する活動
  - 観察記録、登山記、物語等の発表
  - 写真展、ビデオ上映会、観察会等の実施



これらの活動を通して、登頂までに遭遇する数々の困難とそれを乗り越え、挑み続ける子ガエルたちへの敬意を伝えるとともに、カエルの生態の神秘性、神秘性にあふれた宝満山の保護を訴える。

○宝満山のヒキガエルの調査研究